学校番号	2004

令和８年度　理科

教科	理科	科目	地学演習	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	センサー地学　啓林館						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまでに様々な面から探究してきた地学の知識を体系的に整理し、関連のある事象を結び付けることによって、知識の定着だけでなく、地学的な知識を活用できるように学び直していくのがこの授業の目的です。大学での学びに限らず、人生における様々な場面で幅広い教養が必要とされますが、中でも地学的な知識や、自然現象の原理などを身につけることによって、あらゆる興味関心を押し広げ、豊かな人生をもたらすだけでなく、持続可能な地球に貢献することができる人間力を育むきっかけとなるでしょう。

2　学習の到達目標

(1)地球・大気・海洋・宇宙・自然環境について深く学習し、自然の法則・原則への理解を横断的に深め、自然現象やその関連について、体系的に理解することができるようになる。
(2)学習を通じて、事物を深く考える力だけでなく、知識を活用できる力を養う。
(3)見通しをもって、適切に予習・復習したりするなど、学習を主体的に行い、自らの学びを調整しようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地球・大気・海洋・宇宙・自然環境について、相互の関連を図りながら学習し、基本的な概念や原理を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	様々な自然現象やその原理について、知識を活用することができるなど、横断的・体系的に理解している。	様々な自然現象やその原理について、自らの学習を、見通しをもって、適切に予習・復習したりするなど、主体的に自らの学びを調整しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	活動する地球	①　地球の構造 ②　プレートの運動 ③　地磁気・ジオイド ④　地震 ⑤　火山 ⑥　火成岩 ⑦　結晶分離作用	a: 固体地球・大気・海洋について、応用的な概念や原理を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する深化した技能を身に付けている。 b: 様々な自然現象やその原理について、知識を応用することができるなど、横断的・体系的に理解している。 c: 様々な自然現象やその原理について、自らの学習を、見通しをもって、適切に予習・復習したりするなど、主体的に自らの学びを調整しようとしている。	定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 提出ノート
	大気と海洋	①　大気の運動 ②　高層天気図 ③　地球全体の熱収支 ④　大気と海水の運動 ⑤　日本の天気 ⑥　海流の要因		定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 提出ノート
後期	太陽系と宇宙	①　太陽 ②　太陽系 ③　宇宙の誕生 ④　宇宙のスケール ⑤　天体の運動 ⑥　HR 図	a: 宇宙や地球の歴史について、応用的な概念や原理を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する深化した技能を身に付けている。 b: 様々な自然現象やその原理について、知識を応用することができるなど、横断的・体系的に理解している。 c: 様々な自然現象やその原理について、自らの学習を、見通しをもって、適切に予習・復習したりするなど、主体的に自らの学びを調整しようとしている。	定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 提出ノート
	地球の歴史	①　地球と生命の進化 ②　地層の読み方 ③　気候の自然変動 ④　私たちの日本列島 ⑤　自然災害 ⑥　人間の活動と地球環境		小テスト	小テスト ワークシート	ワークシート 提出ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度